

週間火山概況 (平成 23 年 9 月 30 日 ~ 10 月 6 日)

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（9月30日～10月6日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 10月6日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（10月6日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

三宅島みやけじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙の状況は、悪天候のため確認できない期間もあったが、火口縁上200～300mで経過した。

火山性地震は、少ない状態で経過した。

9月23日頃から、振幅が20分間程度の間隔で間欠的に増大する連続微動が発生し、10月7日13時（期間外）現在、振幅が減衰しながらも継続している。このような現象は、2001年以降夏期に多くみられている。なお、微動の振幅の増大に際して、その他の観測データに特段の変化はみられない。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。

硫黄島いおうとう [火口周辺警報（火口周辺危険）]

地震活動は、2011年2月末頃から高い状態が続いている。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から12月にかけて一時鈍化した。2011年1月末頃から隆起速度が増加し、現在も続いている。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要である。

福徳岡ノ場ふくとくおかのば [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われなかった。これらの機関のこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長年にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

霧島山きりしまやま（新燃岳しんもえだけ） [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

新燃岳では、9月7日の噴火以降、噴火の発生はない。

火山性地震は、やや多い状態が続いている。また、振幅の小さな火山性微動が9月30日01時50分から19時38分まで継続した。

傾斜計¹⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

9月29日（期間外）に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり300トン（前回9月2日、2,200トン）と少ない状態であった。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、新燃岳の北西側を中心に2月1日以降伸びの傾向がみられている。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）に注意が必要である。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）が新燃岳火口から10kmを超えて降っている。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要である。

桜島さくらじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が30回発生した。このうち6日09時47分の爆発的噴火では、大きな噴石²⁾が3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで達した。大きな噴石が3合目まで達したのは2010年6月12日以来である。また、同火口では夜間に高感度カメラ⁴⁾で確認できる程度の微弱な火映を3日から4日にかけて観測した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

3日及び6日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量はそれぞれ一日あたり1,000トン

及び1,500トン（前回9月28日、2,000トン）と、やや多い状態であった。

火山性地震は少ない状態で経過し、噴火に伴う火山性微動が時々発生した。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられているが、一部の観測データではこの夏頃から伸びが鈍化している。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、大きな噴石²⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

^{さつまいあうじま}薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

火山性地震は、少ない状態で経過した。硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや高い状態が続いている。また、同火口では3日に夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測した。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石²⁾に注意が必要である。

^{すわのせしま}諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

^{あたらげ}御岳火口では1日に噴火が1回発生した。この噴火に伴う噴煙の高さは火口縁上500mであった。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震及び火山性微動は、少ない状態で経過した。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石²⁾に注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

^{あづまやま}吾妻山【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

4日21時45分頃に継続時間11分程度の火山性微動が、6日12時20分頃にも継続時間1分程度の火山性微動が発生した（火山性微動の発生は2010年8月1日以来）。これらの微動に先立って、浄土平の傾斜計¹⁾（大穴火口の東約1km）では、火口方向上がりの微小な傾斜変動が観測されたが、微動の終了とともに収まった。火山性微動の発生前後で、噴気の状態、夜間に大穴火口が明るく見える現象及び地震活動に特段の変化はなかった。また、5日に実施した現地調査でも、大穴火口の噴気の状態及び火口周辺の表面現象に変化は認められなかった。

噴気活動は、やや高い状態が続いている。地震回数は少ない状況となっている。

吾妻山では、ただちに火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられないが、火口内では火山ガスの噴出がみられるので警戒が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 4) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

注) データについては精査により、後日修正することがある。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒*
レベル4（避難準備）	火口周辺警報	入山危険
レベル3（入山規制）	噴火予報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）		平常
レベル1（平常）		

*居住地域が不明確な場合

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。